

週間漁海況情報—第6号

平成25年2月12日

内容は水産研究所ホームページ <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/suiken/> で公開され、毎週月曜日夜間に更新します。

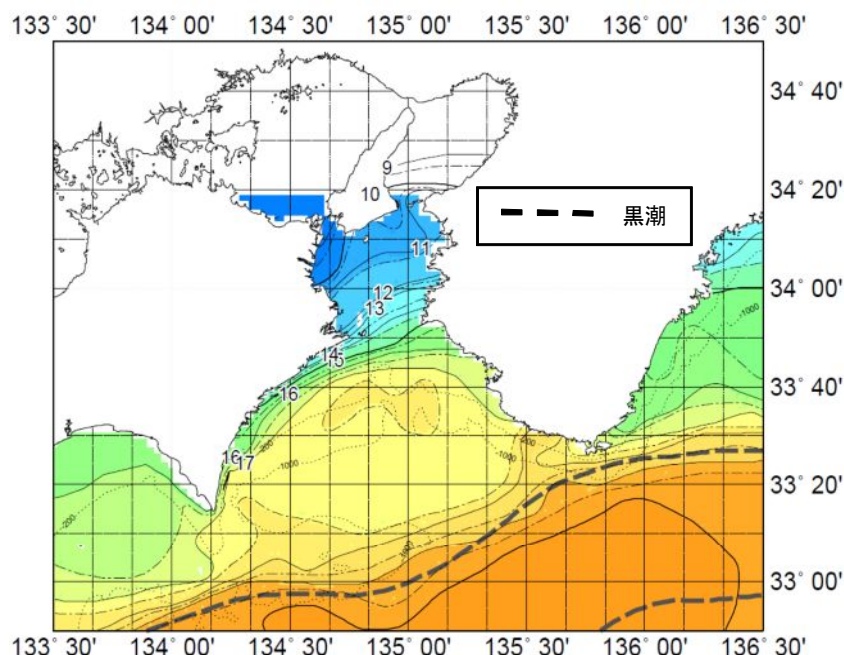
徳島県立農林水産総合技術支援センター
水産研究所

1. 海況の経過

右に千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、三重県及び和歌山県が共同で作成した海況図（H25.2.12）を示した。

黒潮は、室戸岬沖でやや離岸、潮岬沖で接岸している。

黒潮本流の表面水温は、19～20℃台である。徳島沿岸の表面水温は、播磨灘で8～9℃台、紀伊水道で9～13℃台、海部沿岸で13～17℃台である。紀伊水道外域への顕著な暖水流入は確認できない。

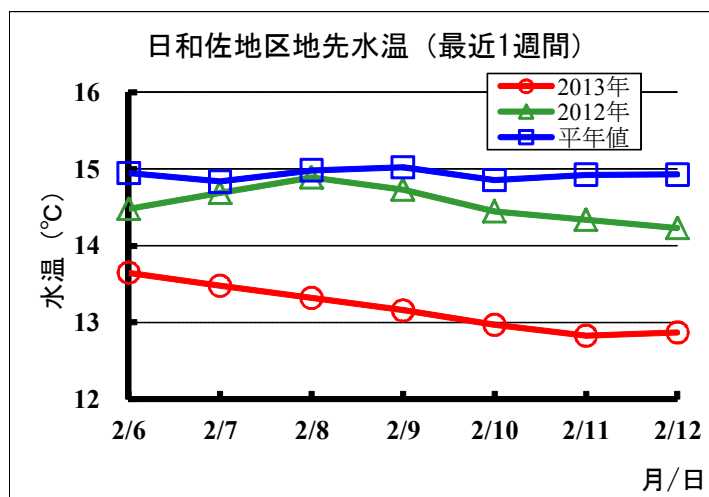
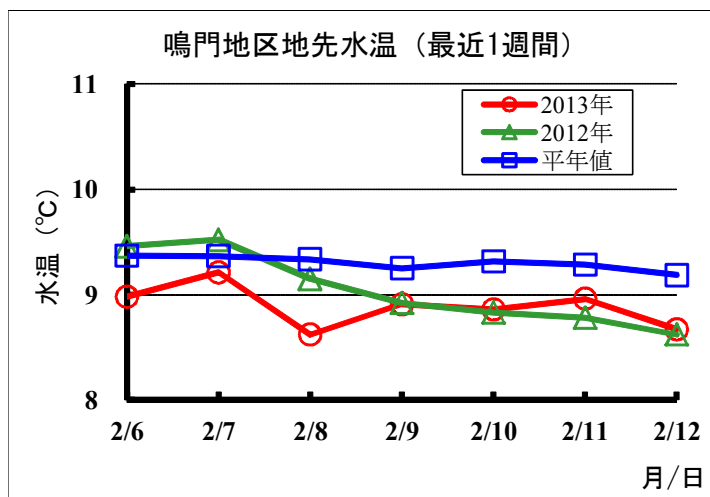


播磨灘海区観測結果

観測日		水 温				塩 分			
		表層	10m	20m	30m	表層	10m	20m	30m
2/6	今年値	8.8	8.8	8.8	8.6	32.2	32.2	32.2	32.3
	平年偏差	-0.4	-0.3	-0.3	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.5
	前年偏差	0.7	0.6	0.4	0.1	0.4	0.3	0.2	0.2

漁業調査船「とくしま」で2月6日に行った播磨灘海区の海洋観測では、表層～20m層水温が「平年並」の8.8℃、30m層で「やや低め」の8.6℃であった。

地先水温 最近1週間の地先水温は、鳴門地区は「やや低め」～「平年並み」の8.6～9.2℃、日和佐地区は「低め」～「やや低め」の12.8～13.7℃、牟岐地区は「かなり低め」～「低め」の11.1～12.7℃で推移した。



* 水温偏差の目安

平年並み：±0.49以下、やや高め（やや低め）：±0.50～1.49、高め（低め）：±1.50～2.49、かなり高め（かなり低め）：±2.50以上

2. 漁況の経過

延縄：海部沿岸で、大主体にキダイが0.4トン（1日1隻あたり17kg）水揚げされた。

建網：海部沿岸で、ヒラメが0.3トン（同4kg）、メジナが0.2トン（同7kg）水揚げされた。

小型定置網：海部沿岸で、カタクチイワシが1.6トン（同53kg）、キビナゴが0.3トン（同18kg）、スルメイカが0.3トン（同12kg）水揚げされた。

大型定置網：海部沿岸で、マメ主体にマアジが0.2トン（同24kg）、中主体にスルメイカが1.3トン（同142kg）水揚げされた。

釣り：海部沿岸で、大主体にマアジが0.2トン（同7kg）水揚げされた。

漁業種類別集計表（抜粋） 2月4日～2月10日

県下6漁協から聞き取り						
漁業種類	漁獲海域	魚種	延べ出 漁隻数	漁獲量(kg)	1日1隻当たり 漁獲量(kg)	銘柄・その他
延縄	海部沿岸	キダイ	23	401	17	大主体
建網		ヒラメ	78	296	4	
		メジナ	30	205	7	
小型定置網		カタクチイワシ	31	1,631	53	
		キビナゴ	14	252	18	
		スルメイカ	23	280	12	
大型定置網		マアジ	9	218	24	マメ主体
		スルメイカ	9	1,280	142	中主体
釣り		マアジ	30	214	7	大主体

昨年同時期の主な漁獲傾向：昨年の2月6日～2月12日には、海部沿岸では、建網で、中主体にヒラメが0.4トン、小型定置網で、カタクチイワシが0.6トン、キビナゴが0.2トン、メジナが1.2トン、大型定置網で、小中主体にシイラが0.3トン、中主体にスルメイカが0.2トン、ブリが0.4トン、釣りで、アオリイカが0.3トン、大主体にゴマサバが1.4トン、タチウオが0.2トン、大・中主体にマサバが1.0トン、紀伊水道では、釣りで、特大主体にタチウオが0.6トン水揚げされた。

週間予報：黒潮は、室戸岬沖で「やや離岸」、潮岬沖において「接岸」～「やや離岸」で推移する見込み。地先水温は、鳴門地先で「やや低め」～「平年並み」の8～9℃台、日和佐地先で「低め」～「やや低め」の12～13℃台で推移する見込み。